

えみしらも　あゆみなやめる　石狩の

山路に早き　雲の足かな

(アイヌの人たちも越えるのに苦労する)

石狩の山越えの道に雲が早く流れていくことだ)

などと、戯れに詠み、凍つた雪を口に含み、立ち止まつては息をつぎながらようやく800メートルほど登り、午前10時を過ぎたころ、峠の上に到着することができました。ここまでくれば、この先1.7キロほどは平地です。右に前富良野岳、左は富良野岳といい、これらの峰続きに十勝岳、ベベツ岳、チクベツ岳、石狩山と連なつて見え、その後方には空知岳、上ホロカメットク山、下ホロカメットク山が並び、はるか遠く南の方角には、然別岳、十勝岳、南西の方角の近くにはヌモツペ岳、その後方には夕張、芦別の山々が少しづつ顔をのぞかせ、ここで今までの景色は一変します。

しばらく行くと、五葉松の低く茂つた上に降り積もつた雪が暖かさで解けていて、かんじきをつ

けた足が枝の間に踏み込んでしまうので、非常に歩きにくくなりました。

そこから小川のヌモツペの源流の辺りの沢への下りとなり、トドマツが多くなりました。2キロほど進むと、シユマウシナイという小川に出ました。この川の水は鉄分が多いので、なかなか飲めるものではありません。ここを過ぎてニナウシユという小川に出ました。空知川の上流には3つの



上富良野の頭彰碑  
武四郎が上富良野を探査したことを記念し、松浦武四郎頭彰之碑建立期成会によって建立された。